

## 郷土資料館だより

Vol.32. No.2

2009.12.1

第24回国民文化祭・しずおか2009 協賛事業・三島市郷土資料館企画展

## 「百人一首と古今伝授 古今伝授のまち三島からその源流を探る」開催報告

- 開催期間 10月24日(土)～11月23日(月・祝)
- 主 催 三島市郷土資料館
- 会 場 郷土資料館1階展示室

第24回国民文化祭・しずおか2009では、三島市主催事業として「小倉百人一首かるた競技大会～古今伝授のまち三島から～」(11月7日・8日)が開催され、それに併せて当館では企画展「百人一首と古今伝授」を開催しました。本企画展では、古今伝授資料をはじめ、『三嶋千句』『宗祇終焉記』『宗祇像』など連歌師宗祇に関する資料や、百人一首関係資料などを<古今伝授>、<百人一首>、<芭蕉と連水>の章ごとに展示しました。また、「あなたが選ぶ百人一首」と題し、百人一首の中からそれぞれ好きな歌を一首選んでもらったところ、来館者の皆さんにも大変好評を博しました。

<古今伝授>の章では、古今伝授について概観しながら、三島で行われたとされる武家歌人・東常縁つねよりから連歌師・宗祇への古今伝授について、宗祇の著した講義ノートである『古今和歌集両度聞書りょうどきき』やその伝授に大きく関わる『宗祇獨吟千句』(『三嶋千句』)を取り上げて紹介しました。また、古今伝授の中心人物であると同時に百人一首の普及にも大きく関与している宗祇についても、肖像や書状、連歌作品などにより紹介しました。

<百人一首>の章では、百人一首の成立から始まり、江戸時代に刊行された絵入りの美麗本や錦絵、豆本、注釈書、異種百人一首、遊びや競技としての百人一首(かるた、双六)、そして小倉色紙についてなど、様々な形態の百人一首を概観しながら、その他のかるた遊び(いろはかるたや木製かるた、三島郷土カルタ)も併せて紹介しました。

<芭蕉と連水>の章では、和歌から連歌、そして俳諧への流れの中で、俳聖・松尾芭蕉と三島について、その芭蕉に憧憬した三島の俳人・滝の本連水を紹介しました。また、連水が蒐集した膨大な古典籍群、いわゆる「勝俣文庫」の中から和歌の注釈書を中心に紹介しました。



『宗祇獨吟千句(三嶋千句)』  
京都大学大学院文学研究科蔵

## 企画展関連講演会 宗祇の見た関東—文明三年古今伝授の背景— 開催報告



- 日 時 11月3日(火・祝) 13:30~15:30
- 講 師 慶応義塾大学文学部准教授 小川剛生氏
- 会 場 本町タワービル4階会議室 ●参加者数39名

今回の講演では、文明3年(1471)三島の地において武家歌人・東常縁から連歌師・宗祇への古今伝授が行われた時代背景を、文学・歴史学の両分野からアプローチにすることによって古今伝授の真相に迫りました。古河公方と堀越公方の戦乱に端を發

する関東地方の様子に始まり、東常縁や宗祇の人物像、歌人と連歌師について、さらには三島での古今伝授についてなど、時に冗談なども交えながら、大変示唆に富むお話を伺いました。

参加者の中には東京や静岡といった遠方から聴講に訪れた方も見られ、殆どの参加者が講師の話に熱心に耳を傾けている姿が大変印象的でした。



## ふるさと講座 宗祇ゆかりの地をめぐる 開催報告

- 日 時 11月14日(土) 9:00~16:30
- 見学先 早雲寺(箱根町湯本)・定輪寺(裾野市)・佐野美術館・三島市郷土資料館 ●参加者数15名

今回の講座では『宗祇終焉記』にあわせて、連歌師・宗祇の終焉地である箱根湯本の早雲寺と遺骸の葬られた裾野市の定輪寺を中心に見学しました。当日は低気圧の影響で雨脚が強く、特に午前の見学先である早雲寺では強雨で足許がおぼつかないにも関わらず、参加された方々は皆熱心に宗祇供養塔、北条五代の墓などを見学していました。午後は当館企画展「百人一首と古今伝授」の展示説明の後、裾野市桃園にある定輪寺に向いました。定輪寺では中村住職に説明していただき、宗祇句碑や墓はもとより、所蔵資料の宗祇坐像や宗祇木像などもご住職の好意により拝見することができました。また、最後の見学地である佐野美術館では国民文化祭協賛事業「和歌(やまとうた)の彩り」展を見学し、担当学芸員の説明に耳を傾けておりました。参加者からは「三島は宗祇ゆかりの地だと言う話は聞いていましたが、今回宗祇の事も良く解り、楽しい一日でした」等好評でした。



早雲寺



定輪寺



佐野美術館

## 企画展「遺伝学ってなんだろう？」開催報告

●開催期間 平成21年7月5日(日)～9月27日(日)

●入場者数 10,095名

今回の企画展は、国立遺伝学研究所の創設60周年を記念して行われたものです。春の一般公開時を除いては、普段殆ど市民の目に触れる機会のない遺伝学研究所ですが、この展示では、研究所の概要から始まり、創設からの歴史や研究成果、遺伝研で誕生した三島桜などを中心に紹介しました。また、夏休み中ということもあり多くの子供さんたちも訪れましたが、特にDNAの二重らせん構造を模したDNA折り紙が人気を博していました。遺伝学研究所は長く三島市にあり、遺伝学研究所の権威としてその成果を世界に発信し続けている一方で、市民の間には桜の名所としての認識はあるものの、研究内容等を知る人はごく僅かであるということからも、三島市街地の当館で遺伝研を紹介できたことは大変意義深いことであると思われま



研究室の様子を写した大型パネル



DNA特大折り紙

## 郷土資料館運営協議会委員研修視察報告

●日時 10月2日(金) ●視察先 浜松市博物館 ●参加数4名

郷土資料館には館の円滑な運営を図るための運営協議会が設置されています。協議会では委員の研鑽と先進館の事例研究を兼ねて毎年研修視察を行っており、今年度は浜松市博物館を訪れました。以下は、迫田委員長からの研修視察報告です。

今年度の郷土資料館運営協議会の研修視察は、大雨雷注意報の出る中、浜松市博物館を訪れました。今回はバスで静岡県を東から西へ横断するとあって、往路では浜松に住んだことのある芦川委員から、西部の活気は東部の比ではないとの体験談が語られ、話は「遠州強盗、伊豆乞食」の由来にまで発展、おおいに盛り上がり、車内は談笑の渦に包まれました。

昼食後、浜松城公園を散策。天守閣に登り、家康の出世城として知られる浜松城の成り立ちを示す展示物を見学後、浜松市博物館に向かいました。国指定史跡蛸塚遺跡をそっくり取り込んだ広い敷地内は、縄文の森を再現した木立に囲まれ、昭和54年開館の館内には、原始・古代・中世・近世・近現代の5コーナーに分かれた常設展示室と、特別展示室があり、この館の目玉とも言えるナウマン象の骨格標本が我々を迎えてくれました。

常設展の内容に目新しさは感じませんでしたが、屋外展示物もあり、駐車場も3カ所にあるなど環境・施設面で恵まれており、職員も15名のうち6名が学芸員とのことでした。

三島市郷土資料館も、館蔵品ではひけをとらないと思いましたが、せめて浜松並みの広い建物が欲しいというのが私の率直な感想でした。(委員長 迫田信行)



第13回 富士・沼津・三島 3市博物館共同企画展

# レール&ロード 富士・沼津・三島の交通ものがたり 開催

- 開催期間 12月6日(日)～平成22年2月21日(日)
- 会場 郷土資料館1階展示室 ●主催 富士・三島・沼津三市博物館連絡協議会

富士・沼津・三島の3市を結ぶ道である東海道は本協議会のメインテーマとして、今まで江戸期の東海道を中心に紹介してきましたが、近現代においても東海道は3市を結ぶ重要なパイプであり、さらにその重要度はますます増加の傾向にあります。

今回の企画展は、その近現代における「東海道」にスポットをあて、主に鉄道（東海道本線ほか）や高速道路など、3市における近代交通の歴史をひも解くと同時に、これからの交通が人々の暮らしや地域の観光にどのような影響を与えてきたかを紹介します。



現・三島駅開業 昭和9年

### ◆展示内容

- 鉄道 丹那トンネル開通記念及び三島駅開業記念資料、伊豆箱根鉄道関連資料(チンチン電車含む)、駅弁いまむかし
- 道路 国道・高速道路開通時の写真
- くらしと観光 観光地図、伊豆・箱根観光バス記念乗車券



三島駅パンフレット



チンチン電車(広小路付近、昭和38年)



特製お好み弁当掛紙(桃中軒)



## 博物館実習報告



本年度の博物館実習は、9月1日から11日までの間に8日間行われました。実習生として参加した北岡佐知子さんは、富士市立博物館における3市博物館共同企画展「レール&ロード～富士・沼津・三島の交通ものがたり～」の展示作業に参加し、実際に展示方法を学びました。北岡さんは、桃中軒での取材をもとに、展示を工夫していました。昔のお弁当の掛け紙をクリアフォルダーに入れ、表紙に竹皮を使用し、お弁当風に見立てました。北岡さんからは「前日シミュレーションをしたように展示作業を進めたが、実際のケースには角度がついた台が入っており、想定した範囲より狭い空間で、キャプションも位置の統一感を出すのが難しかった」という感想がありました。

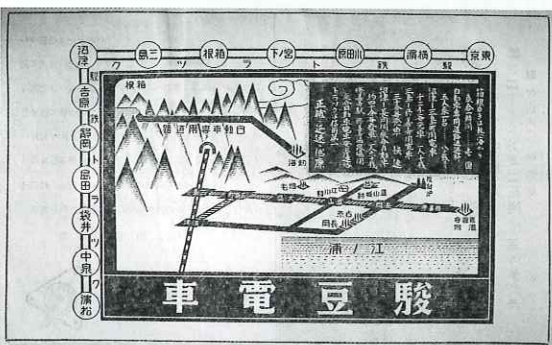


## 特別寄稿 伊豆箱根鉄道史 桜井祥行氏(伊豆の国市文化財保護審議委員)

伊豆箱根鉄道の開通は1898(明治31)年になります。当時の三島駅は現在の下土狩駅で、そこから南條駅(現伊豆長岡駅)まで鉄道を敷設しました。翌年には大仁駅まで延長するわけですが、どうして現在の下土狩駅がその当時出発駅となったのかというと東海道線が御殿場経由で敷かれていたからです。

当時の鉄道技術ではトンネル工事はまだ未熟で、熱海～三島間の丹那トンネルを開削することができません

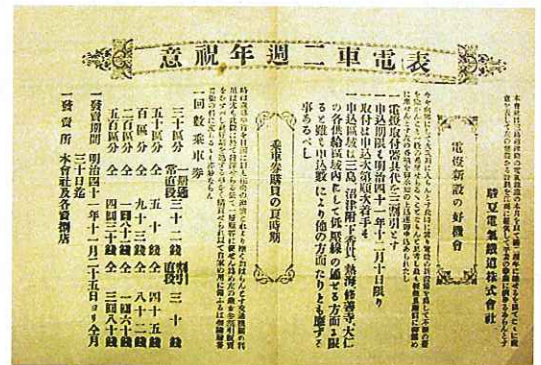
でした。三島の街は江戸時代から東海道の宿場町として栄え、樋口本陣や世古本陣(現在の本町ビルあたり)を中心として旅籠(旅館)が並んでいました。現在の御殿場線が当時の東海道線をさし、その中で下土狩駅あたりの位置をもう少し三島寄りに開設することも可能だったわけですが、当時は鉄道の重要性もよくわからなかったため、新駅誘致運動は起こりませんでした。



ところが1889(明治22)年にいざ東海道線が開通するや、予想以上の人や物資が流通し、三島の街は一気にさびれてしまいました。あわてた三島の有力者たちは三島停車場設置請願委員を設け、東海道線上に路線始発駅を新たに設置し、それにつながる鉄道建設運動に走りました。そこで互相鉄道株式会社を創立した小山田信蔵と交渉し、路線始発駅を従来からある沼津駅ではなく、新たな三島駅(現下土狩駅)を設置するならば三島町の一万坪を無償提供する条件を出し、契約にこぎつけました。ところが三島町の駅をどこにするかで町内が二分され、もめにもめました。結局請願委員の河辺宰兵衛や三浦丈八郎、花島兵右衛門たちが間をとりもち、現在の三島田町駅を三島町の駅として設置することに決定しました。

こうして1898年5月20日に三島～南條間が開通しました。この時の設置駅は、三島駅(現下土狩駅)、三島町駅(現三島田町駅)、大場駅、原木駅、南條駅の5駅でした。翌年の7月17日には大仁駅まで終着駅を延長し、その間に田京駅を設置しました。伊豆長岡駅や大仁駅が終着駅であったことの証左は駅前が広く敷地がとられていることで、これは当時馬車が一周できるようにするためで、そこから各方面へ馬車で乗りついでいきました。夏目漱石が修善寺温泉へ行く際には大仁駅から馬車で、あるいは井上靖が湯ヶ島から大仁駅まで馬車で来たことはよく知られています。

やがて葦山中学校や田方農学校に通学する生徒への要望に答え、葦山駅や伊豆仁田駅が設置され、1924(大正13)年8月1日には修善寺駅まで終着駅が延長され、今日に至っています。1934(昭和9)年に丹那トンネルが開通することで、熱海～三島間が開通し、今日の東海道線に路線が変更することにより、これまでの三島駅を下土狩駅とし、現在の三島駅を始発駅とした伊豆箱根鉄道となりました。



## 郷土教室「<sup>はた お</sup>機織りを体験しよう」報告

- 開催日 平成21年8月8日(土) ①10:30~12:00 ②13:30~15:00
- 講師 杉山 洋子氏(ギャラリーあさひ)
- 参加者 10人 ●会場 三島市郷土資料館 2階

夏休みの郷土教室として開催しました。今回は、古い布や着物を裂いて織る「裂き織り」という昔のリサイクルで、機織りを体験しました。定員20名のところ、締め切り時点では7名でした。応募者が少なかったため、自分が織った裂き織りを持って帰れるように、一人あたり15分としました。15分では時間が少なかったようですが、アンケートで、大部分の人から「すごく良かった」という回答をいただきました。郷土資料館の機織機は、日ごろは展示してあるだけなので、それを本来の形で使用できたことは、とても良かったと思います。



丁寧な講師の指導

## 寄贈資料紹介

平成21年3月~4月にかけて次の方々からご寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。  
(敬称略)

- |            |                    |    |
|------------|--------------------|----|
| 小針 謹子 千葉市  | ・三高女卒業記念写真帖(昭和14年) | 1点 |
|            | ・卒業証書(昭和14年)       | 1点 |
|            | ・終了証書              | 2点 |
|            | ・賞状(皆勤出席)          | 2点 |
|            | ・賞状(籠球部夏期練習)       | 1点 |
|            | ・写真(修学旅行ほか)        | 6点 |
| 三久保美知子 三島市 | ・北伊豆震災に関する御下賜金及び文書 | 2点 |
|            | ・北伊豆震災絵はがき(8枚セット)  | 1点 |



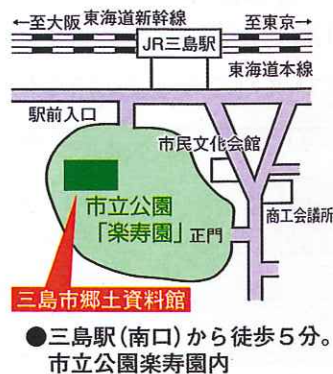
北伊豆震災絵はがき  
三島久保町附近の惨状

### 【編集後記】

国文祭関連事業の企画展やイベントの準備やらでてこまい日々があっという間に過ぎていきました。おかげさまで館職員一同、今のところ新型インフルエンザにかかることなく館運営に邁進できていることに感謝。(T)

### 利用案内

- 休館日  
毎週月曜日  
(祝日の際は翌日)  
12月27日~1月2日
- 開館時間  
午前9時~午後5時  
(4/1~10/31)  
午前9時~午後4時30分  
(11/1~3/31)
- 入館無料  
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



### 郷土資料館だより vol.32 No.2 (第95号)

発行日 平成21年(2009)12月1日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036  
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228  
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp  
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/  
発行 三島市教育委員会